



“勇気ある撤退は次なる飛躍のプレリュード”

事前に配布された学会誌の中部接骨学会米田 實会長の巻頭言で、中部接骨学会が今回で休止するとの突然の告知があった。昭和35年より半世紀余りの輝かしい歴史を誇り時代を開拓し続けた中部接骨学会は、今回で幕を閉じることとなり時代の大きな節目を迎えた。

11月4日(日)、午前10時より午後3時50分まで公益社団法人日本柔道整復師会第47回東海学術大会(主管:岐阜県柔道整復師会)、第94回中部接骨学会が、「愛知県産業労働センター(ウインクあいち)」大ホールにて開催され、682名(本会会員245名)が参加した。



時代の変化とともに柔道整復師の発表の場は大きく広がり、いくつもの医学会が柔道整復師に門戸を開いている。その情報はインターネットを介して瞬時に世界を駆け巡る時代に入った。特に一般演題については、東海ブロック大会ともその対象が重なるので合理化すべきであり、次の進路を切り開くべく転身する時期を迎えたのではないかと、米田先生は巻頭言で書かれ、会長挨拶の中でも「こうして私がこの場で挨拶をさせて頂くのも今回で最後になる。中部接骨学会は歴史的な役割・使命を十分に果たしたのではないかと述べるとともに、永年にわたる多方面の関係者への感謝にも言及された。10時30分より11時35分まで会員研究の7演題の発表が行われ、



米田先生は巻頭言で、現在の組織は一度リセットし、未来対応型の組織として形を変えての活動再開を目指し、再活性化を図ると述べられ、「勇気ある撤退は次なる飛躍のプレリュード」という某名将のことばを紹介された。今この雌伏の時が将来のための充電期間であることを多くの会員が信じている。



本会の山本 尚会員(半田)は「私の行っている母指弾発現象の運動療法について」と題して発表した。母指MP関節屈曲位での等尺運動により症状が改善した2症例を報告した。

午後1時より、中部接骨学会セミナーと日整セミナーが、各々大ホールと5階小ホールにて同時進行で開催された。前者は「アキレス腱物語～柔道整復師とアキレス腱断裂の関わり方について～」と題し中部接骨学会セミナー実行委員会の講演が行われた。後者は公益社団法人日本柔道整復師会保険部介護対策課の細野 昇先生 藤田正一先生より、「柔道整復師と介護保険について～公益活動を目指す柔道整復師会として～」と題して講演が行われた。

2時30分より一般公開講座(特別講演)として「食生活とがんについて」と題し、岐阜大学大学院医学系研究科 疫学・予防医学教授・永田知里先生は、世にいう食品とがんとの相関は、統計学的にはほとんど見出されていないなど興味深い知見を紹介された。

中部接骨学会は休止となっても東海学術大会はブロック4県の力で今後も続けていく。次年度主管県(三重)の伊藤 和夫会長の閉会の辞にて、東海・中部合同での最後の学会が盛会裏に閉会した。

米田先生は巻頭言で、現在の組織は一度リセットし、未来対応型の組織として形を変えての活動再開を目指し、再活性化を図ると述べられ、「勇気ある撤退は次なる飛躍のプレリュード」という某名将のことばを紹介された。今この雌伏の時が将来のための充電期間であることを多くの会員が信じている。



日整介護対策課
細野先生(左)と藤田先生



永田知里先生

豊川市で介護予防事業契約締結

11月6日(火)、本会と豊川市との間で二次予防事業である「運動器向上教室(マシン無)業務委託契約書」を交わすことができました。

豊川市で事業への参入活動を始めてから2年になります。当初は参加希望の機能訓練指導員資格を有する会員5人で市にアプローチを始めました。



まずは豊川市役所の高齢福祉課に直接申し込みましたがなかなか話が進まず、その間岡崎支部の事業を見学させてもらったり相談に乗ってもらったりしました。また支部会員の伝手を頼りに政治連盟の活動も行ない、その甲斐もあって、今年度ようやく介護業務に予算がつき入札制度が始まりました。もちろん我々も速攻で参加の準備を始め、8月の公募に参加表明しました。この時点で、参加希望会員は5人から10人となりました。愛整会の了解を得て正式に入札に名乗りをあげ、事業提案書を作成して提出。10月22日(月)の朝は、仕事を休んで詳細説明を受けに行きました。その夜にはホームページに決定が掲載されました。そして11月6日、正式な契約締結に至り、2年間の努力がようやく報われました。

事業形態は市の施設である「ゆうあいの里」で行なうセンター方式で、1回1時間半で15回(平成24年12月4日～平成25年3月19日)、委託料は495,000円です。通所困難な利用者のために市の車3台で、手分けして送迎もします。すべてが初めてのことばかりなので、今は週1回みんなで集まりさまざまな検討や練習をしています。

契約に際しお世話になった岡崎支部担当者や愛整会介護関係の役員の方々の皆さま、小村事務長など、すべての方に感謝申し上げます。今後は豊川市会員で協力しながら事業の拡充に向けて頑張っていきます。

(豊橋支部介護担当 田口俊三)

11月18日江南市民文化会館にて江南市民健康フェスティバルが開催された。正午から3時30分まで江南地区を中心に一宮支部会員19名が協力して市民の皆さんに、体力測定(介護予防事業に準拠)の身体評価と、メタボリックシンドローム予防への脂肪率・筋肉率の測定を行なった。後者では卓球や太極拳を行っていたスポーツ愛好家は非愛好家に比べて脂肪率が低く筋肉率が高いという期待通りの傾向が確認できた。非愛好家の方は脂肪率の低下を期待し軽い運動の必要性を再認識する様子だった。131人を数え

江南市民健康フェスティバル (一宮支部 広報)



徐々に地域に接骨院の活動が認知されつつあることを確認できる機会となった。今後も地道な努力が地域社会に根ざし、将来に評価される公益活動となるものと考える。

高齢者が乗る自転車 交通事故多発 県警より啓発の依頼

愛知県警より本会へ、最近高齢者が乗る自転車の交通重大事故が多発しているため、会員を通じて事故防止の啓発をお願いしたいとの依頼がありました。ご協力をお願いします。

- 信号や一時停止は必ず守りましょう。
- 道路は、左右の安全を確認してから横断しましょう。
- 被害軽減のためヘルメットを被りましょう。

